

平成29年度自己評価書

学校名 和歌山市立中之島小学校

校長名 馬場 秀典

作成日 平成30年2月16日

1 教育目標

「豊かな心と学ぶ意欲をもちたくましく生きる子ども」の育成

・豊かな心情をもち、思いやりのある子ども ・学ぶ意欲をもち、自らのめあてに向かって取り組める子ども ・いきいきと活動し体育学習を楽しめる子ども

2 本年度の取組についての評価

	開かれた学校	ゆたかな心	確かな学力	体づくり
重点目標 P	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の人材や保護者を進んで活用する。 ○情報を家庭・地域に積極的に発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○豊かな体験活動・交流の充実を図る。 ○すべての教育活動を通して道徳教育を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業改善のための研修をうけ、授業力の向上を図る。 ○基礎学力向上の取組を積極的に進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自発的、主体的に取り組む体育科学学習を進める。 ○基本的生活習慣の定着を図る。
取組の状況 D	<ul style="list-style-type: none"> ・図書ボランティア、英語ボランティア、学生ボランティアを教育活動に積極的に活用した。 ・学校だより等を保護者や地域の皆さんにお配りし、学校の教育活動について積極的に広報を行った。 ・ホームページの内容の充実を図った。 ・ふれあい給食や中之島作品展・運動会・授業参観等地域の方と交流を積極的に図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保幼小連携教育による園児との交流を各学年最低学期に一度交流をはかった。 ・清掃活動や遠足、給食などで縦割り活動による異年齢の子ども同士の交流を活性化を図った。 ・毎日のあいさつ運動や読書タイム等様々な場で、心を豊かにする取組を実施した。 ・自尊感情の育成に向け、成功体験を増やすような活動を積極的に行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「中之島タイム」・授業・宿題での漢字、計算等は個別指導を取り入れながら基礎基本の定着を図るとともに学年に応じた学習内容の確かな習熟を図った。 ・毎朝の「読書タイム」や「うち読」を通して学校と家庭が連携しながら「自ら本に手を伸ばす子ども」を育てた。 ・問題解決学習や調べ学習、体験学習等を積極的に行い、「伝え合う授業」に繋いだ。 ・「伝え合う授業」を通して、言語力・コミュニケーション力の育成を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間計画に基づいて、子どもが進んで楽しく取り組む体育科学学習を実践している。第65回全国学校体育研究大会和歌山大会で取り組みを発表するとともに公開授業を5本提供した。 ・「中之島チャレンジ」の時間を設け、全校あげて体力づくりに取り組んだ。 ・生活調べやアンケートより、子どもの生活実態をとらえ、学校と家庭が連携して基本的生活習慣定着に向けた取り組みを推進した。
取組の成果と課題 (評価結果) C	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートの「学校は様子をわかりやすく伝えている」について、肯定的な評価が90%だった。 ・児童は学校ボランティア（英語・図書・昔遊び等）との交流を喜び、積極的に参加しているため、今後も継続していきたい。 ・地域の方からは、交流を通して、子ども達や学校の様子がわかって、よかったとのことのお話をいただいている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートの「仲良く助け合う子の育成」が昨年同様84%、「一人ひとりが大切にされ認められる学校」が78%で2ポイント昨年度を下回った。 ・たてわり活動は児童同士が進んで取り組み、笑顔で楽しい時間となった。 ・保幼小の交流授業は事前事後の職員の話し合いも丁寧に行い、次の活動に生かしている。交流授業をつうじて、自己有用間の醸成がはかれた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度全国学力テストでは、算数A（知識）B（活用）では県平均や全国平均を上回ることができた。国語Aは県平均、全国平均と同じ正答率、国語Bでは県、全国を上回った。 ・児童アンケートから毎日の勉強が「分かる」が85%で+2ポイント、また、保護者アンケートでは「基礎学力が身につけている」が82%で1ポイント昨年度を上回った。基礎的な学力定着について今後とも取組を推進していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全国大会では、5授業を提案し、参加者は約300名で、協議会では熱心に討議をしていただいた。本校体育研究の評価・改善のよい機会となった。 ・体育には積極的に取り組み、体づくりは進んでいる。中之島チャレンジの時間を通して、遊びながら体力作りを支援していきたい。 ・保護者アンケートの「早寝早起き朝ご飯」は、82%で昨年よりも1ポイント下回った。毎学期実施の生活調べや保健だより等でその必要性について積極的に周知していきたい。
改善方法 A	<ul style="list-style-type: none"> ・学校・学年・学級・保健だより・ホームページ等の情報発信のさらなる充実を図る。 ・地域や保護者のボランティアを積極的に招く。 ・学校行事には保護者、地域の方を積極的に招き、交流を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての教育課程において、子ども一人ひとりを生かす取組を行う。 ・あいさつ運動を積極的に継続して行う。 ・交流活動（幼稚園・保育所等）・たてわり活動をさらに充実させる。交流はやりっ放しにせず、事後の評価や改善のための話し合いをしっかりと行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・書くこと・話すことを大切にした授業を推進し、国語力（言語力やコミュニケーション力等）の向上を図る。 ・「中之島タイム」の充実を図り、漢字・計算等基礎学力の確実な習得を目指す。 ・学力向上に向け、個に応じた指導の研修を積極的に行い、教師の指導力向上・授業改善をめざす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体育科学学習の研究を深化させ、楽しい体育での子ども体力向上をさらに進める。 ・保護者への啓発を進め、基本的生活習慣の定着をめざす。 ・食育を推進し、子どもの体位・体力の向上を図る。

3 その他の課題

特別支援を必要とする児童が多数在籍する。担任だけでなく、組織としての取組が求められる。現在の生活状況や生育環境を把握しての指導、また、深い児童理解に基づき、一人ひとりを温かく励まし、自信と自尊感情を育む支援が必要である。また、関係機関と連携をとりながら、保護者へのサポートも並行して行っていく必要がある。